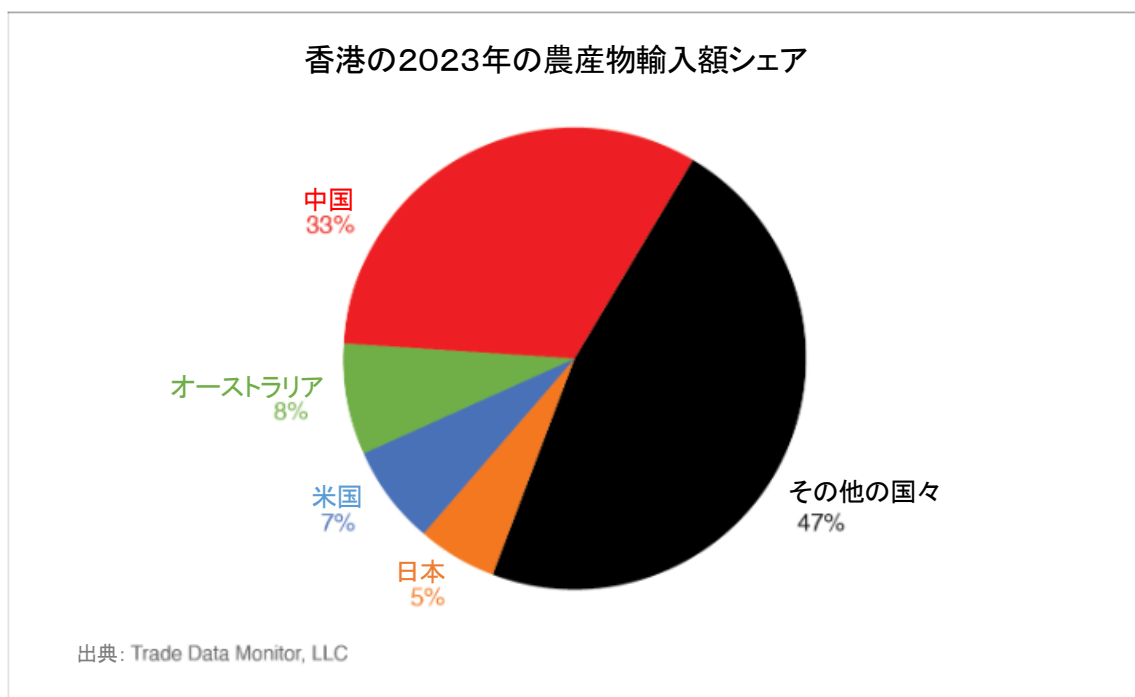


## 香港 米国産農産物の輸出機会を開拓

[米国農務省国際農産物貿易レポート 2024年1月13日](#)

### 要約

2023年に香港は米国の農産物にとって世界で17番目に大きな市場であった。同年、米国は15億ドルの農産物を輸出し、香港への消費者向け食品の供給国として中国とオーストラリアに次いで第3位であった。香港は、牛肉、鶏肉、ナッツ類、その他の米国産農産物の輸出にとって重要な市場である。香港の農産物総輸入額は197億ドルで、2023年の経済成長率は3.3%であった。観光業の深刻な不振、金融サービスをはじめとするグローバルビジネスの香港からシンガポール等へのシフト、香港の人々が買い物や食事のために中国本土に旅行する傾向の高まりにより、香港の経済はパンデミック前の水準に完全には戻っていない。しかし、香港の経済は安定を取り戻して成長路線に戻り、香港政府は観光と投資を促進するための取組みを行っている。食品や飲料の免税輸入、裕福な消費者基盤、他のアジア市場との主要な貿易ハブとしての香港の地位、及び米国の農産物が高品質であるという認識により、輸出機会は存在する。



### マクロ経済的視点

2023年の香港の人口は750万人で、一人当たりの総生産額(GDP)は5万500ドルを超え、アジアで最も高い部類に入る。香港は活気に満ちた国際都市で、年齢の中央値が47.2歳の洗練された消費者がいる。香港は人口が密集した都市で、耕作地は3.2%であり、食料供給の95%を輸入に依存しており、蒸留酒を除いてすべての飲食料品の輸入は免税である。蒸留酒の関税は2024年に1リットル当たり200香港ドル(HKD)(25.64米ドル)以上から10%に引き下げられた。米ドルに固定された香港ドルは、香港の輸入業者と米国の農産物輸出業者の両方に外国為替の安定性を提供している。

2018年から2019年にかけての米国と中国との貿易紛争とそれに続く世界的なコロナ禍が相まって、米国から香港への農産物輸出は大幅に減少した。米国から香港への農産物輸出額は、2017年に42億ドルのピークに達し、米国の市場シェアは17%であったが、2023年には15億ドルに減少し、市場シェアは7%となった。この減少の大部分は、牛肉、ナッツ類、生鮮果実、鶏肉等の消費者向け食料品であり、コロナ禍による観光の低迷に起因している。しかし、香港の観光業は2024年に回復し始め、輸入食品の需要も回復すると予想されており、米国の農産物輸出業者にチャンスを提供している。

## 米国産農産物輸出の見通し

香港は引き続き、米国の農産物及び食品の輸出にとって重要な市場であると見られる。マクロ経済状況が改善し、消費者の購買力が上昇し、観光産業が回復すると予測されるため、今後数年間は消費者向け輸入農産物に対する需要が堅調に推移すると見られる。米国の農産物輸出はパンデミック前の2017年の高い水準から大幅に減少しているが、米国製品、特に消費者向け商品は、強制力のある米国の食品安全基準と、有機食品、自然食品、健康食品、グルメ食品等の米国製品の一貫した品質により、香港の顧客によく知られ、高い評価を得ている。香港では、米国農務省(USDA)の有機ラベルの使用も受け入れられている。今後有望と見られる米国産輸出農産物は、牛肉及び牛肉製品、家禽及び家禽製品、豚肉及び豚肉製品、アルコール飲料、ナッツ類、生鮮果実(サクランボ、リンゴ、柑橘類、ブルーベリー)、調味料及びソース、キャンディー/菓子、食品調製品(スープ、ベーキングミックス等)、及び魚介類等である。

(品目別記述)

### 生鮮果実

米国は2023年に1億2,200万ドルの生鮮果実を香港に輸出し、2022年の1億500万ドルより16%多かったものの、過去最高であった2017年の2億9,100万ドルより少なかった。主な米国産生鮮果実輸出品は、リンゴ、ブルーベリー、サクランボ、柑橘類であった。米国から香港への生鮮果実輸出の市場ポテンシャルは、高品質な輸入品と健康志向の食生活に対する消費者の嗜好に牽引されて堅調である。消費者は、米国産のリンゴ、柑橘類、サクランボ、ブドウ、イチゴ等の果実を、その品質、味、及び食品安全基準で高く評価している。健康志向の顧客は、リンゴ、柑橘類、ベリー類等、彼らがビタミンや抗酸化物質の天然の供給源だと認識している生鮮果実をより一層求めている。さらに、香港の消費者は、軽食・間食、食事、デザートで毎日大量の生鮮果実を消費している。旧正月等の季節の行事や祝祭日には、リンゴ、ブドウ等の米国産果実は特別な贈答品と見なされる。米国の生鮮果実輸出の市場ポテンシャルは、旺盛な消費者需要、高品質であるとの評判、及び食生活の健康志向の高まりに支えられ、引き続き大いに有望であると見られる。

(他の品目は省略)

## 通商政策

香港は世界貿易機関(WTO)の設立メンバーであり、アジア太平洋経済協力(APEC)のメンバーである。香港は、中国、ニュージーランド、欧州自由貿易連合、チリ、マカオ、東南アジア諸国連合(ASEAN)、グルジア、オーストラリアとの間に8つの自由貿易協定を結んでいる。香港は中華人民共和国の特別行政区であるが、別個の関税地域であり、WTOに加盟している。香港は商品や資本の自由な流れが可能な自由港であり、関税や税金がかからず、ほぼすべての飲食料品の関税が無税である。

## 結論

コロナ禍後の回復の遅れによる経済成長の鈍化にもかかわらず、香港は家計所得の増加、消費者の購買力と支出の増加、観光セクターの回復により、米国の輸出業者にさらなる成長機会を提供している。消費者は引き続き、米国産農産物を高品質で信頼性が高く、安全であると認識している。米国の事業者は香港を訪れ、貿易ミッションや展示会に参加し、業界に特有の知識と情報を収集し、香港及び地域の輸入業者との関係を構築するべきである。